

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	知多南部広域環境組合 ごみ処理施設	階数	地下1階地上7階
建設地	愛知県知多郡武豊町字1号地11-28	構造	RC造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年6月22日
敷地面積	50,001 m ²	作成者	(株)エネ・グリーン 坪田彩乃
建築面積	7,182 m ²	確認日	2019年6月22日
延床面積	14,234 m ²	確認者	(株)エネ・グリーン 定森淳一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">12.3 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														2.8	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														1.8	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														1.0	
2 界壁遮音性能														1.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														1.0	
2 温熱環境														2.1	
2.1 室温制御														3.3	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ゾーン別制御性														4.0	
システムリモコンにて管理														1.0	
2.2 湿度制御														1.0	
2.3 空調方式														0.30	
3 光・視環境														3.5	
3.1 昼光利用														4.2	
1 昼光率														5.0	
2 方位別開口														-	
3 昼光利用設備														3.0	
昼光率 7.46%														0.40	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														4.0	
3.4 照明制御														3.0	
組合職員用事務所 750lx														0.25	
4 空気質環境														3.8	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														4.0	
F☆☆☆☆														1.00	
4.2 換気														3.3	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														4.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
開口部:2.97㎡ 室面積の1/30以上開口部あり														0.33	
4.3 運用管理														4.0	
1 CO ₂ の監視														3.0	
2 喫煙の制御														5.0	
建物内禁煙														0.50	
Q2 サービス性能														2.7	
1 機能性														2.7	
1.1 機能性・使いやすさ														2.0	
1 広さ・収納性														1.0	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														-	
独自														0.40	
1.2 心理性・快適性														3.3	
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0	
2 リフレッシュスペース														2.0	
3 内装計画														5.0	
コンセプトの明確化、建物機能の明確化、照明計画及び内装計画あり														0.33	
1.3 維持管理														3.0	
1 維持管理に配慮した設計														4.0	
2 維持管理用機能の確保														2.0	
防汚性の高い内装材・外装材を使用、害鳥対策														0.50	
2 耐用性・信頼性														2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														0.80	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														0.23	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														2.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														0.09	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														5.0	
上位3種B以上を使用、Eは不使用														0.15	
2.4 信頼性														2.8	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														0.20	
3 電気設備														2.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														0.20	
②														0.20	

3 対応性・更新性				2.5	0.29			-	2.5
3.1 空間のゆとり		②	壁比率0.25	2.2	0.31			-	
1 階高のゆとり				1.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				2.5	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.17			-			
3 電気配線の更新性		3.0	0.11			-			
4 通信配線の更新性		3.0	0.11			-			
5 設備機器の更新性		1.0	0.22			-			
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22			-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37			-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR1 エネルギー					0.40				3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.83	4.7	0.10			-	4.7
2 自然エネルギー利用				3.0	0.25			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI _m =0.76	3.4	0.39			-	3.4
4 効率的運用				3.5	0.26			-	3.5
集合住宅以外の評価				3.5	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制			運用管理体制組織化、責任者の指名、エネルギー消費量の目標値を計画し建築主へ提出	4.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.3
1 水資源確保				3.8	0.15			-	3.8
1.1 節水			省水型便器、自動水栓	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無			雨水の利用あり	4.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63			-	3.1
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	土間:再生クラッシャーラン	3.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS下地	4.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			断熱材は全てノンフロン品	5.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率 85%	3.6	0.33			-	3.6
2 地域環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	プラットフォームの設置、複数の出入り口、車200以上のスペースを確保	4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チェックリストの過半数を満たしている、広告物照明なし	5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

計画上の配慮事項	
総合	事務室の利用者が快適に過ごせるよう一部取り組まれている。建物のコンセプトに沿った設計となっており外観だけでなく内観にも考慮がされている。防汚性の高い建材や害鳥対策を行い建物の維持管理を行っている。外皮の熱負荷制御や設備システムの高効率化により消費エネルギーの削減に取り組んでいる。水資源の保護や温暖化対策を行っている。様々な取り組みにより建物の省エネルギー化に努めている。
Q1 室内環境	システムリモンによるゾーン別制御を行い室内環境の維持に反映されている。十分な昼光率を確保し昼光利用を行っている。事務室では750lxの照度を確保しており快適な視環境造れるよう努めている。汚染物質を元から断ち確実に有効な室内空気環境を保てるよう努めている。室面積の1/30以上開口部を設けており空気質の改善が望ましい。建物内を禁煙とし非喫煙者が煙に曝されない環境となっている。
Q2 サービス性能	建物のコンセプトが明確であり具体的な取り組みとなっている。内装計画と照明計画が一体として計画されており用途に適した演出を行っている。防汚性の高い材料の使用、害鳥対策等により建物の維持管理に努めている。壁比率0.25となっており用途変更や設備システムの変化が比較的容易に対応が可能である。
Q3 室外環境(敷地内)	中高木が290本以上あり緑地面積は3000㎡以上ある。敷地内の緑化に積極的に取り組まれている。
LR1 エネルギー	外皮の熱負荷抑制により冷暖房の使用エネルギー量が削減できる。設備システムの高効率化が消費エネルギーの削減に大きく影響を与えている。運用管理体制の組織化、責任者の指名により体制が整っており、組織的な運用が可能である。またエネルギー消費量の目標値を建築主へ提出し、環境負荷に関わる働きかけを行っている。
LR2 資源・マテリアル	省水型便器、自動水栓、雨水の利用により水資源の保護に努めている。ノンフロン品の断熱材を用いており地球温暖化対策の取り組んでいる。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率85%となり地球温暖化対策への取り組みが確認できる。プラットホームの設置、複数の出入り口、200台以上の駐車スペースにより交通負荷の抑制を行っている。光害対策チェックリストの過半をみたしており地域住民への考慮をしている。
その他	イベントを地域市民団体と連携して開催し環境について考えながら交流を深めることができる。また緊急時にも連携が取れるよう日頃から災害ボランティア団体と情報を共有し被害の最小化に努めている。オリジナルのキャラクターを用いてイベントを行い交流の促進に努めている。

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

知多南部広域環境組合 ごみ処理施設(工場棟・管理棟)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:12.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1